

- 特集 -

知りたい!! ヒグマ

～いまこそ考える、私たちの「ヒグマ情報」～

農林課林業振興室 野生鳥獣専門員 ☎ 56-2174



ヒグマ情報の実情

村では、日頃から野生鳥獣専門員が中心となってヒグマの活動情報、識別情報を調べています。個体の目視情報、足跡やフンといった痕跡、自動撮影情報など市街地周辺・山林を問わず集計し、ひと月の情報を翌月の広報紙「野生動物対策の状況」のコーナーや折り込み資料「ヒグマについてのお知らせ」で皆さまにご覧いただいております。

ただ、ご承知のようにヒグマの生態を観察することは容易でなく、得られている情報はごく断片的で、目立つ条件に偏ったものです。また総じて言えることは、すでに「終わったこと」だということです。調べられた時点からヒグマは次の場所や行動に移ってしまい、程度の差こそあれ、具体的な現状推測、未来予測は難しいのが現実です。そのため、村のヒグマ情報は直接的に安全や安心を提供できるものではないのです。

それではなぜヒグマ情報の収集と共有に取り組むのでしょうか。それは過去のヒグマ情報を参考に、私たちがわずかずつでもヒグマという動物への理解を進め、見えざる現状や前途にどんな可能性があるかを考えていくためです。それゆえにあえて危険度などで選別せず、さまざまな情報も幅広く掲載しています。

ヒグマが街に!? そのとき...
村が要注意情報を発しても、インターネットをお使いでない方も多く、お使いの方も必ずお読みになるとは限りません。情報を受け取れないとき、身の安全は図られないでしょう。

実は危急のとき、一方通行の速報には補助的な役割しか任せられません。ヒグマが市街地などに侵入してきたとき、村は「安心」よりもまず「安全」を優先し、侵入個人への実力行使、人側の避難や行動制限を実施します。周辺の皆さまへのお知らせは、そのときその場で具体的な行動をお願したい方に対象を絞り、電話や訪問など双方向のコミュニケーションで伝達を確認します。これらは危険回避措置であり、情報伝達自体は目的ではありません。一方、皆さまに状況をご承知いただき、「安心」や後々の安全のための「学習」をもたらすための情報伝達は、基本的に後回しとはなりません。インターネットだけでなく広報紙や回覧でもお伝えいたします。お近くでの要注意情報を受信し、職員から具体的な行動を求められていない方は、とりあえず屋内や車内に留まり、静かに聞き耳を立てて次の動きに備えることが大切です。やじ馬行動はやめましょ

「いま」身を守る情報源は
う。もとよりヒグマはその行動が読みきれないので、ヒグマ情報が「ない」と「届いていない」はあまり違いありません。状況が分からなくても伝達が遅くても、焦らず構えることが肝心です。

過去の「ヒグマ情報」も、積み重ねること何らかの行動の傾向を見出し、特定の危険要素を指し示す可能性はあります。普段おそらくあまりヒグマがいないであろう市街地では、出現情報自体が大きな意味を持ちますし、攻撃的な行動を取る個体の出現情報はどこであれ見逃せません。このようにして私たちは、もとより断片的なヒグマ情報を希求しがちになります。しかしながら情報に基づく「読み」は当たらぬことが多く、効果的に私たちの行動選択を導いているか、甚だ心もとないところではあります。そこでむしろ大切なのは自身が第一発見者、当事者となった場合への備えではないでしょうか。いつどこであれヒグマに遭遇するかもしれない日常において、自身が知覚する目の前の状況(周りにヒグマがいないかの確認も含め)こそが、自身の行動選択と安全のために最も役立つヒグマ情報なのです。

情報なくともヒグマは居る

村のヒグマ情報では「出没」という言葉を使わないようにしていることにお気づきでしょうか。人間の知覚領域に「出没」して消える幽霊のような存在ではなく、見えていないときもどこかに実在する動物としてヒグマを捉える視点を皆さまと共有したいためです。

右の図は、酪農学園大学の研究チームによる電波標識個体の位置記録です。国道上や住宅周りを幾日も白昼に歩き



2021年秋季ヒグマ測位点 (酪農大学提供)

ヒグマに強い村づくりを

ここまで述べてきましたように、ヒグマ情報はそれ単体で役立つものではなく、発信者と受信者の共通理解、ヒグマに関する予備知識を通じて安全や安心につながります。広報や勉強会を通じ、村民の皆さまのヒグマ観察眼を養い、また情報を適切に行動に生かすスキルを伸ばしていただきながら、総合的にヒグマに強い村づくりを進めていくため、村はこれからも皆さまと「ともに学ぶ」姿勢で取り組めます。

具体的には、引き続き毎月「お知らせ」に重点を置き、案件同士の関連や状況判断を総合的にお伝えできるよう努めるほか、占冠村ヒグマミーティングの取り組みを継続・発展させ村全体の情報リテラシーの底上げを図ります。なお、ヒグマによる危険事案の対応にあたっては、安全確保を優先して対処し、そのことに理解を求めてまいります。

おなじみ!
「ヒグマについてのお知らせ」(PDF版)
ヒグマの活動期間中、広報紙に折り込んで配布してきた紙の資料です。令和5年度分以降は、電子データで村ホームページにも掲載しています。

Check!!

1月27日(土) 占冠村総合センターにて
第7回占冠村ヒグマミーティング開催!

占冠村ヒグマミーティングは、ヒグマに強い村づくりをめざす村と村民有志、専門家による勉強会です。7回目となる今回は、富良野地区広域教育圏振興協議会にもご協力いただきながら「ひぐまひろば」と「ヒグマ会議」の2部構成で開催。前回(令和5年2月11日開催)よりもさらに充実し過ごしやすくなりました。

当日は村民の皆さまのほか、酪農学園大学、北海道大学、帯広畜産大学からも先生方や学生さんたちが来てくださり、スタッフ合わせて総勢68人が集まりました。

日頃の地道な研究によって明らかになる新たな知見。そこから湧き上がる新たな疑問。私たちの身の安全にも直結する事柄だけに、楽しみつつも真剣に、ヒグマ探求の世界に浸りました。この活動の継続が、さまざまな場面で「ヒグマに強い村づくり」につながることを期待されます。

熱気に当てられ? 創作にも力が...

村ホームページでもミーティングの様子を掲載しています!
Check!!

力作ぞろいの作品展。

テレビゲームもヒグマづくし!

「ヒグマ専用注意情報」の発信について

ヒグマ出現時の速報・注意喚起などを占冠村ホームページ内で情報発信します。また、占冠村公式LINE(ライン)アカウントとお友達登録されている方には、LINEにてホームページ上でヒグマ情報の更新についてお知らせします。まだお友達登録をされていない方はこの機会にぜひご登録ください!

※村公式LINEアカウントでは、毎月の広報紙の発行や各種イベント情報について発信しています。左記の二次元コードの読み取りからお友達登録が可能です。

「速報」始めます!
令和5年は過去になく人身事故の恐れが迫る年でした。村民の皆さまからもヒグマの出現情報について早急に知らせてほしいとのお声があり、村は、これまでの情報発信に加えて、市街地などにヒグマが出現した際の速報・注意喚起について村ホームページおよび村公式LINE(ライン)にて発信していくことにしました。